

2014 年度立命館大学校友会 東日本大震災復興支援事業 東北応援ツアーレポート

ツアー参加者氏名：真砂利宏

卒業年：1985 年卒業学部：経済学部

{参加コース}C 福島県相馬コース

今回 3 度目の応募にして、やっと参加の機会に恵まれました。それも一番参加を希望していました、福島県コース。私は宮城県仙台市赴任を昨年 4 月に命じられました。東北には全く地縁・血縁も無く、学生時代を通して旅行すら行ったことの無い未開の地でした。着任早々、津波被害の大きかった青森県八戸地区から岩手県、宮城県の沿岸部に足を運びましたが、震災発生から 2 年を経過してもがれきの撤去がやっと済んだぐらいで、改めて人や物が帰ってくるにはまだまだ時間が必要と感じましたし、震災遺構も多数残ったままでした。福島県相馬地区は他の 3 県とは別の事情が被さっているであろう事は想定していましたが川内村遠藤村長や福島県飯塚企業局長のお話を聞き、村民・県民が元の暮らしに帰って来ない(来れない)事情やこれからの課題を認識出来たことは大変有意義でありましたし、草の根ですが私自身も何かお手伝い出来ないものかと考えさせられました。風評被害が根強い中、県内出荷生産物全数の線量チェックを行っている事情はまだまだ知らされていない事実だと思います。これだけの検査体制が整っている実態は、返せば全国で一番安全なものを福島県が出荷している裏返しかもしれません。福島県が抱えている事情を少しでも緩和できるように私自身も縁あって赴任した数少ない関西出身の東北人として、発信を続けて行きたいと感じたツアーです。本当に良い機会を与えていただき、感謝しております。また今回ツアーのお骨折りを頂いた本校校友会事務局の皆様、馬場幹事長始め福島県校友会の方々には重ねて御礼を申し上げたいと思います。

以上